

「満月はまぶしいくらい明るい」とよく表現されます。確かに夜間に瞳孔が開いた状態では、満月は眩しいと感じることもあります。満月は、全天一明るい恒星「シリウス」の実に3万倍もの明るさがあります。天体望遠鏡で満月を見ると、確かに眼に良くないこともあるので、接眼レンズに「ムーングラス」という減光レンズを装着することが推奨されます。

しかし、月は所詮太陽光を反射して光っているので、太陽とは比較にならないほど暗いです。満月でも太陽の約35万分の1の明るさしかありません。そんなわずかな月光でも、写真を撮ることは可能です。月光だけで写真を撮っている写真家も存在するほどです。

私も「スーパーブルームーン」の晩に、北軽井沢のキャベツ畑を撮影してみました。ISO（カメラの感度）をできるだけ下げると解像度は上がります。その分、露光時間は長くなるので、三脚が必要です。シャッターを押す時に、カメラ自体がブレるので、「セルフタイマー」を使うのがコツです。何となく幻想的な風景写真になりました。

月光のキャベツ畑を眺めていて、ふと「キャベツは月の光でも光合成をしているのかな?」と思いました。

(2023年8月下旬／北軽井沢)

